

# 万博公園自然観察学習館



# カワセミだより

NO. 13 2007. 4. 1

4月号

〈今月の特集〉  
タケとタケノコ



カンサイタンポポ（キク科） 万葉の里



在来のタンポポはどれも総ほう片の外側が反り返らず、花数も少なめ。種子は夏草の茂る間は休眠します。



シロバナタンポポ（キク科） 万葉の里  
西日本に多く、九州では特に多い。

万葉の里ではタンポポの花が咲きそろっています。タンポポはキク科の植物で一つの花のように見えるところはたくさんの花の集まりです。茎や葉をちぎると白い乳液が出るのもタンポポの仲間の特徴の一つです。

万葉の里の黄色い花はほとんどがカンサイタンポポ、白い花はシロバナタンポポでどちらも日本に昔から生えている在来のタンポポです。

カンサイタンポポ、シロバナタンポポの花の時期は春、他の季節に見かける黄花のタンポポは外来種のセイヨウタンポポなどです。外来種のタンポポは花の総ほう片の外側が反り返っており、在来種は反り返っていないので区別できます。

そして外来種との大きな違いは外来種が昆虫による花粉媒介なしに実を結べるのに対し、在来のタンポポは昆

虫なしでは実を結べない点です。したがって在来のタンポポの生息には昆虫がいる自然が必要です。

カンサイタンポポなど外来のタンポポの生えている地域は都市部でも自然度の高いところといえますから、在来のタンポポの有無は自然度を測るバロメーターとなります。皆様のお宅の周りにはどんなタンポポが多いでしょうか。

カンサイタンポポは万博公園では万葉の里のほか西大路、桜の流れ北側、世界の森など除草回数と人の出入りの比較的少ない場所に生えています。シロバナタンポポは万葉の里、世界の森の所々に生えており、いずれも花は5月初旬頃まで見ることができます。





# タケとタケノコ

春の味覚の代表はタケノコ、タケノコを食べると竹の元気をもらえるような気がしますね。食材として親しんでいるタケノコですが、今回は植物としてのタケノコとタケを取り上げてみました。

## タケノコ

### 10日もたてば中学生、2、3ヶ月でもう大人

「筍」という漢字に「旬」という字が入っているのはタケノコが旬(10日間)で一気に伸びきるころからきています。地上に出たタケノコはあっという間に10~20mまで達し2、3ヶ月で葉を展開して栄養分を作り始めます。素早く高さを稼いだ後は枝葉を広げ、太ることなく、ひたすら地下茎に栄養を送り、次代のタケノコの生長と地下茎を伸ばすことにエネルギーを注ぎます。1本の竹の寿命は5~15年ほどで年々勢いが弱る点は、年とともに樹勢が増す樹木と異なるところです。



採ればまた出るタケノコは地下に沢山のストックが

### めぐまれたスタートライン

タケノコの元は地下茎の節に出来た小さな芽で7、8か月かけて地下茎から養分をもらい地下で徐々に大きくなっていきます。タケノコがスピード生長できるのは地下茎にためた豊富な栄養を十分にもらえることと、タケノコのつくりにも秘密があります。

タケノコを縦に切ってみるとすでに生長し終わったときと同じ数の節ができているのがわかりますが、この節のそれぞれに生長帯があり縦に伸びていきます。モウソウチクでは60余りの節があり、例えば各節が1日1cm伸びるとすると単純計算で60cmは伸びることになります。1日に約120cm伸びたという記録もあるそうです。その生長スピードは20年たっても10m前後のスギ、ヒノキなどの樹木に比べるとロケット並みといえるでしょう。



モウソウチク  
(撮影日)  
2004年4月20日



(撮影日)  
2004年4月22日



### 竹林の荒廃と進出



日本では竹の需要が減ったことと、また需要があっても安い外国産の竹材やタケノコに取って代わられたことなどで、竹林が放置されたり、管理が行き届かなくなってしまいました。また竹林に隣接した林に侵入したタケノコが一気に伸び、樹木を圧倒して枯死させることも問題となっています。でも原因は竹にあるのではなく林もまた放置され人間が入らなくなったために林に侵入したタケノコを取るものがなくなったからです。昔は林に侵入した竹はすばやく除かれていたものでした。

竹と林と人がよい関係を保ち日本独特の文化や風景を作り上げてきた歴史が今崩壊しようとしています。里山に出向かれたときには竹林や林の様子を観察してみましょう。管理が行き届いた竹林や林とそうでないものを比べてみましょう。不要になったから打ち捨てるのではなく、再び竹とよい関係を持続できるような人間の努力が必要です。

(万博公園の日常的な竹林管理はNPO団体等が行っています。竹の有効活用のため竹炭製造もしており、売店、総合案内所などで販売しています。)



# タケ

## 竹と笹

タケ類はイネ科タケ亜科に入っていますが、タケ類独特の性質からタケ科というべきという考えもあります。タケは木か草か紛らわしいところがありますね。図鑑では本によりますが大体樹木のところが多いです。

タケとササは通常以下のように区別します。

- ・タケの仲間・・・生長するとタケノコの皮が落ちてしまうもの。
- ・ササの仲間・・・生長後もタケノコの皮が落ちないもの。

タケは一般に背が高く、ササは低いものが多いのですが、この分類でいくと園内各所に植えられているオカメザサは小さいけれどタケの仲間です。

## 竹材としてのタケ

- ・節のあるパイプ構造をしている。そのため太さに比して軽く、丈夫で加工しやすい。
- ・縦にまっすぐに割れ、繊維が長いので細く割くこともできる。
- ・弾力性がある。また熱で容易に曲げられる。
- ・水に強い。
- ・火力が強く燃料に、枝葉は飼料にできる。
- ・抗菌作用がある。

私たちの先祖はタケのこのような性質を利用しすばらしい資源として多方面に利用してきました。

タケはタケノコにより毎年新たな竹が更新され、永続的な資源として使うことができます。近年生活の中でのタケの利用が減少していますが、タケの価値を子どもたちにも伝えていきたいものです。

## 樹木にまさる竹のパワー

同じくらいの高さになる樹木一般と比べてみました。

- ・常緑で年中葉を茂らせ栄養分が作れる。(葉の寿命は1年、初夏に新葉と入れ替わるものが多い)
- ・地下茎による伸長で勢力拡大できる。(幼時日陰でも育つ)
- ・スピード生長し、しかも大型であるため、他の樹木との光獲得競争に有利。
- ・パイプ構造で親竹は自身の栄養やエネルギーの消費が少なく、また強度がある。



クロチク：日本庭園

クロチクはマダケの園芸品種。日本庭園では他にダイモウチクなどの園芸品種があります。

## 竹の代表選手

### モウソウチク(孟宗竹)

高さ10~20m、太さは直径10~20cm。大型。節の環は一重、節の間はやや短い。葉は小さく薄め、葉の付け根のさやの上部に毛(肩毛)がない。タケノコの皮には粗毛がある。中国原産で名前の由来は冬に母親のためにこのタケノコを探して食べさせた親孝行な孟宗という人物の名によるらしい。

タケノコが大きく味もよいのでタケノコ生産の大部分はこのモウソウチク。

日本庭園、自然文化園では梅林横などに竹林があります。園芸種にキンメイモウソウチク、キッコウチクなどがある。



### マダケ(真竹)

高さ10~20m、太さ直径5~15cm。節の環は2重、節の間は長い。葉は大きめ、肩毛があり、長く横に開いて出る。タケノコの皮には毛がなく包装材に使われる。竹材として大変優れた性質を持っており、竹細工など多用途に利用されている。名前もこのことに由来していると思われる。

自然文化園ではひょうたん池近辺で見られます。

別名ニガタケ(苦竹)・・・タケノコは食べられるがモウソウチクよりやや遅く出て少し苦味がある。園芸種にキンメイチクがある。



※他によく利用されるタケには「ハチク」がありますが、万博公園には植栽されていません。



[草木で遊ぼう]  
どうやって入れたのかな？

口の小さな容器の中にマツボックリが入っています。  
どうやって入れたのかな？

■材料

- ・マツボックリ
- ・口のすぼんだ透明容器

■作り方

松かさが乾湿により開閉することを利用します。

- ①松かさを水につけて閉じさせる。
- ②容器の口から松かさを入れ、自然に乾燥して開くまでおいておく。(容器の口の大きさと入れるマツボックリの大きさは互いに相談して決めましょう。  
(写真の容器は霧吹き用のプラスチック容器のリサイクル。口を少し切りました。)

※松かさは雨の後、閉じたものを拾って使ってもよい。



他にタンポポの綿毛を入れてもいいよ。花が終わって綿毛が開く前のものを入れておこう。



# 4月の行事



- 新緑の観察会 4月22日(日)雨天中止
- 木や竹を使った工作教室 4月14日(土)・28日(土)
- <公募行事>
- ★連続講座「植物写真を撮ろう(1)」4月29日(日):雨天時5月6日(日)
- <季節展示>
- ★春の自然展 2月15日(木)～4月17日(火)  
・サクラの開花時期にはサクラの品種をパネル展示します。
- ★野鳥展 4月19日(木)～5月29日(火)

- 行事の詳細、ご参加の方法などは「万博公園だよりECo-Park」をごらんください。
- 学校などの団体対象の理科、生活、総合学習などの教育活動支援も随時行っております。

## 「カワセミだより」Web版

万博公園ホームページに「カワセミだより」を掲載しています。以下のようにたどりご覧ください。

万博公園TOP > 自然文化園 > 自然観察学習館 > 生き物情報 > カワセミだより



## 自然観察学習館アクセスマップ

開館:午前10時～午後4時



電車でお越しの方:

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」下車 徒歩15分
- 「公園東口駅」下車徒歩25分

車でお越しの方:

- 「日本庭園前駐車場」徒歩15分
- 「西第1駐車場」徒歩15分
- 「中央駐車場」徒歩15分
- 「東駐車場」徒歩25分

